

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成27年2月26日(2015.2.26)

【公開番号】特開2012-140428(P2012-140428A)

【公開日】平成24年7月26日(2012.7.26)

【年通号数】公開・登録公報2012-029

【出願番号】特願2011-290738(P2011-290738)

【国際特許分類】

C 0 7 K	7/06	(2006.01)
A 6 1 K	38/00	(2006.01)
A 6 1 K	36/48	(2006.01)
A 6 1 K	31/05	(2006.01)
A 6 1 K	9/10	(2006.01)
A 6 1 K	9/06	(2006.01)
A 6 1 K	9/08	(2006.01)
A 6 1 K	9/70	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 P	17/00	(2006.01)
A 6 1 K	8/64	(2006.01)
A 6 1 K	8/97	(2006.01)
A 6 1 K	8/34	(2006.01)
A 6 1 Q	19/08	(2006.01)
A 6 1 K	31/09	(2006.01)
A 6 1 K	36/18	(2006.01)

【F I】

C 0 7 K	7/06	Z N A
A 6 1 K	37/02	
A 6 1 K	35/78	J
A 6 1 K	31/05	
A 6 1 K	9/10	
A 6 1 K	9/06	
A 6 1 K	9/08	
A 6 1 K	9/70	
A 6 1 P	43/00	1 1 1
A 6 1 P	17/00	
A 6 1 K	8/64	
A 6 1 K	8/97	
A 6 1 K	8/34	
A 6 1 Q	19/08	
A 6 1 K	31/09	
A 6 1 K	35/78	C

【手続補正書】

【提出日】平成27年1月5日(2015.1.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

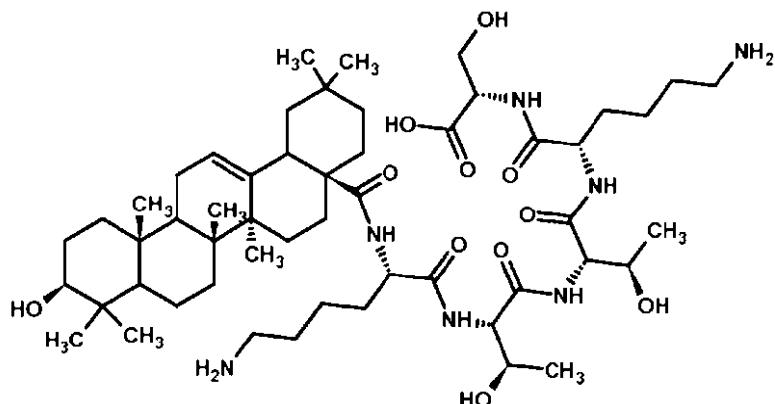
【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

以下の構造Iによって表されるオレアノール酸と結合した配列番号1のペプチドを含む、皮膚の加齢を治療するための医薬組成物。



構造I

【請求項2】

さらに、コナツ液状内乳、アムラ抽出物、スチルベンまたはその誘導体、テトラヒドロクルクミノイドまたはその誘導体、カンゾウ抽出物およびそれらの組合せからなる群から選択される成分または植物抽出物を含む、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項3】

スチルベンを含み、該スチルベンが、オキシレスベラトロール、ブテロスチルベン、レスベラトロール、3-ヒドロキシブテロスチルベンおよびそれらの組合せからなる群から選択される、請求項2に記載の医薬組成物。

【請求項4】

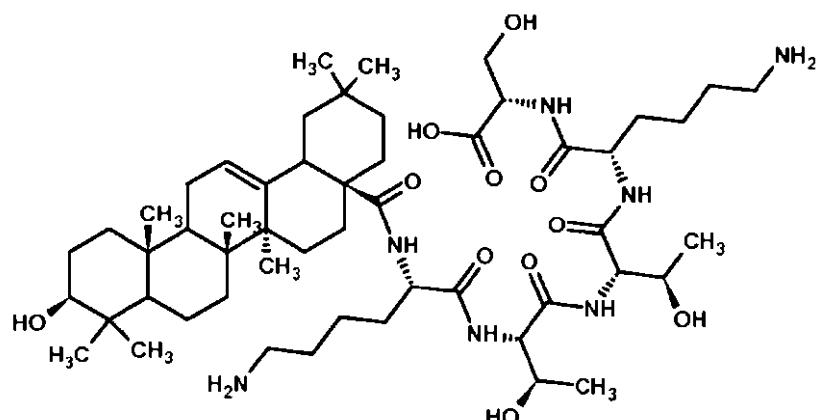
局所的に適用され、さらにクリーム、ローション、ゲル、乳液、パッチおよびリキッドからなる群から選択される形態で存在する、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項5】

さらに、皮膚科学的に許容できる賦形剤中で処方される、日光遮蔽物、スキンライトニング剤、スキンタンニング剤、抗酸化剤、香料、乳濁化剤、保存料、着色剤、乳化剤、膨張剤および緩衝剤からなる群から選択されるさらに別の1つまたは2つ以上の付加物を含む、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項6】

以下の構造Iで表されるオレアノール酸と結合した配列番号1のペプチド。



構造I

【請求項7】

脱水反応による配列番号1のペプチドとオレアノール酸とのカップリングによって合成

される、請求項₆に記載のオレアノール酸と結合した配列番号1のペプチド。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0048

【補正方法】変更

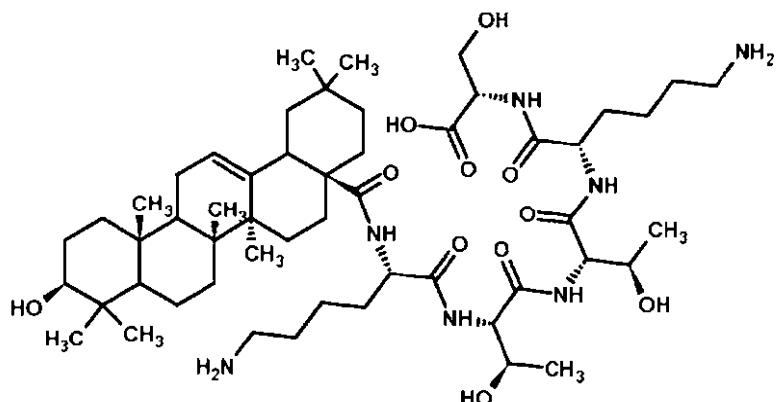
【補正の内容】

【0048】

ペプチドの配列表は添付の付属物1に含まれ、前記はまたファイル名sequenceclistcip.txtとしてEFSウェブにより提出される。

本発明は、更に、以下の態様であり得る。

[1] 皮膚の加齢を治療する方法であつて、前記方法が以下の構造Iによって表されるオレアノール酸と結合した配列番号1のペプチドを含む組成物で皮膚を治療する工程を含む、前記治療方法。



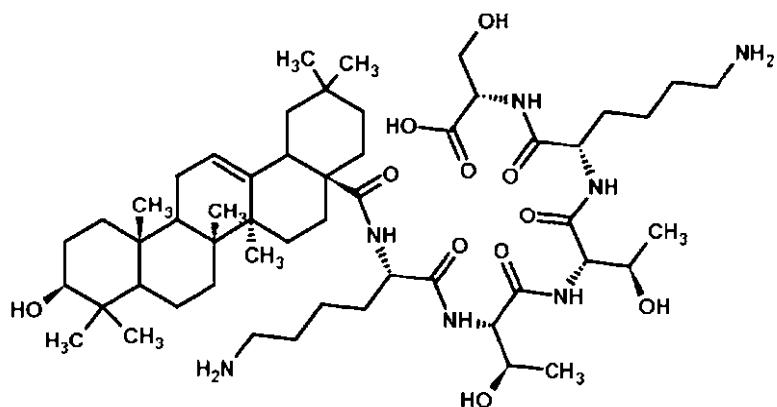
構造I

[2] 組成物が場合によって、コナッツ液状内乳、アムラ抽出物、スチルベンまたはその誘導体、テトラヒドロクルクミノイドまたはその誘導体、カンゾウ抽出物およびそれらの組合せを含む群から選択される成分または植物抽出物を含む、前記[1]に記載の方法。

[3] スチルベンが、オキシレスベラトロール、ブテロスチルベン、レスベラトロール、3-ヒドロキシブテロスチルベンおよびそれらの組合せを含む群から選択される、前記[2]に記載の方法。

[4] 組成物が局所的に適用され、さらにクリーム、ローション、ゲル、乳液、パッチおよびリキッドを含む群から選択される形態で存在する、前記[1]に記載の方法。

[5] 下記の構造Iによって表されるオレアノール酸と結合した配列番号1のペプチド並びに皮膚科学的に許容できる賦形剤中で処方される、日光遮蔽物、スキンライトニング剤、スキンタンニング剤、抗酸化剤、香料、乳濁化剤、保存料、着色剤、乳化剤、膨張剤および緩衝剤を含む群から選択されるさらに別の1つまたは2つ以上の付加物を含む組成物。

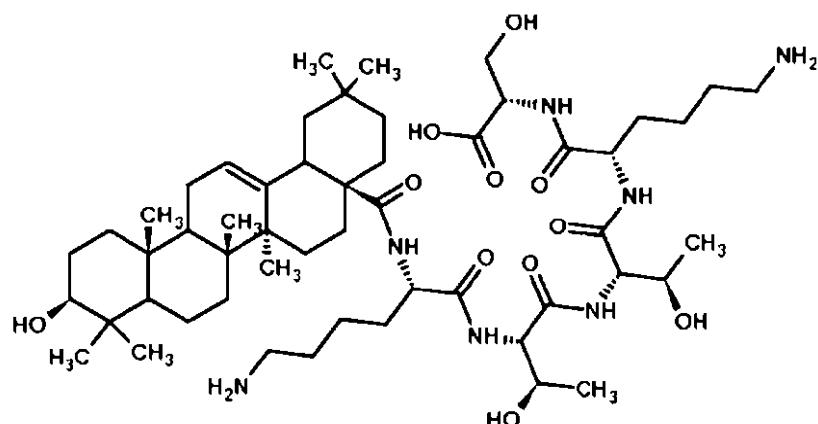
構造 I

[6] 組成物が場合によって、コナツ液状内乳、アムラ抽出物、スチルベンまたはその誘導体、テトラヒドロクルクミノイドまたはその誘導体、カンゾウ抽出物およびそれらの組合せを含む群から選択される成分または植物抽出物を含む、前記〔5〕に記載の組成物。

[7] スチルベンが、オキシレスベラトロール、プロレスチルベン、レスベラトロール、3-ヒドロキシプロレスチルベンおよびそれらの組合せから選択される、前記〔6〕に記載の組成物。

[8] 組成物が局所適用のために処方され、さらにクリーム、ローション、ゲル、乳液、パッチおよびリキッドを含む群から選択される形態で存在する、前記〔5〕に記載の組成物。

[9] 以下の構造Iで表されるオレアノール酸と結合した配列番号1のペプチド。

構造 I

[10] 脱水反応による配列番号1のペプチドとオレアノール酸とのカップリングによって合成される、前記〔9〕に記載のオレアノール酸と結合した配列番号1のペプチド。